

第 9 回和装振興協議会協議内容回答

全国染色連合会

- ・ 今回のコロナによる各業界での影響と今後の取り組みについて

影響は、大である。

各工場ではばらつきはあるものの展示会・催事などの中止があいつぎ今までの注文があった工場は動いていたが、受注が全くなくなった工場が相次いだ。

特に、5月から8月はほとんどの工場は仕事が無い状態であったと聞いている。

受注が無い状態で、仕事場の掃除・ペンキ塗り・壊れた個所の修繕などに時間を費やしていたとか、新作の製作や小物の制作などに時間を使っていたとの報告があった。

しかしながら、新作の制作や小物の制作と言っても所詮私共は、零細企業、家庭内手工業の工場が多く、先行きが見えない物に先行投資に経費をかけるにも不安があり、どのようにして行くべきか試行錯誤の毎日であった。

私の工房ではデパート催事が3月から全く無くなり、催事に参加してもコロナが怖くお客様が来て頂けない状態であった。今現在でも8割減である。

全国染色協同組合連合会では、コロナ禍ではありましたが10月末に全国コンクールを開催いたしました。

123点の出品作品があり5名の先生方をお招きし厳正な審査をして頂きました。

総評では、作品も産地ごとに技術や感覚の違いが現れ、お召しになる方々の多様な好みに寄り添える作品であった。

意欲的な作品も多く拝見できよかった。手の込んだ作品が多くさまざまに工夫を凝らした作品が多かったなど講評いただきました。

来年度は、全国コンクールが第70回の節目の競技会となります。従来のコンクールに加えて、一般公開をして各工房の紹介コーナー等を設け幅広く業界関係者の方々やエンドユーザーの皆さまが求めている物は何か。どんなものが欲しい着物なのかを市場調査も含め開催いたしたく考えています。あとはどのように集客をし、見て頂けるのか各業界の皆様のお力をお貸し進めて行く所存です。

また、傘下組合独自でも展示会の開催を、現状の厳しい状況への打開策とし予定している。

役員会、事務局の運営に於いては、世情を鑑みながら支障の無い様活動している。